

令和4年度第4回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和5年3月10日(金) 14:00～16:00
- 2 場 所 東北森林管理局 2階 大会議室
- 3 出席者 高田委員、黒瀧委員、小野寺委員、一条委員、守屋委員、大坂委員、
児玉委員、安部委員、伊藤委員
- 4 検討結果 木材需要は年明け以降も回復しておらず、管内の製品・原木流通は依然として停滞している。各合板工場では減産体制を継続しており原木の受入量を制限しているほか、集成材・LVL工場においても適正在庫を維持するため原木の受入調整を行っている。
原木価格は製品価格の値下がりを受け、製材用、集成材・LVL用を中心に段階的に値下がりしている。
今後の見通しとしては、物価上昇や住宅金利の上昇などにより住宅着工への影響が懸念されることなどから、少なくとも5月の連休頃までは原木・製品需要が低調な状況が続くとの予想がされる。一方で、各工場・流通業者とも減産や在庫調整をしばらく継続していることから、今後荷動きが回復してきた場合に対応できず品不足に陥る可能性が高いという指摘もされている。また、製紙用・燃料用原木については、現在素材生産量の減少から各所で不足感が出ており、今後も引き合いがますます強まることが予想される。
このような中、国有林では原木の過剰供給を防ぐとともに、虫害時期の生産・販売を抑制するため、令和5年度は立木公売やシステム販売の公告時期を例年より遅らせる計画としているほか、立木販売済の物件に至っては搬出延期措置を講じている旨の報告がされている。
また、越材の販売に当たっては委託販売で実施することとし、需給動向に応じ柔軟に対応することとしている。
以上のことから、国有林に対しては、「引き続き管内の市況や需給動向を注視しつつ、令和5年度に講じる措置を効果的に行うとともに、必要に応じて原木及び立木の供給調整を柔軟に行うことができる体制を維持していくよう求める。」と報告する。

5 主な意見

- 例年通り事業体は自山の伐採が主で、原木は供給過多となっている。合板工場は夏以降減産体制を継続しており、原木の受入量を調整している。また、集成材・LVL工場においても、製品在庫を適正水準に維持するための原木受入調整を行っている。原木受入価格については、製材用、集成材用は弱気配、合板用は横ばいで推移。LVL用は段階的に値下がりしている。
- 燃料用原木の在庫が減少傾向にある。全国的にも供給不足の深刻度が増しており、東北森林管理局管内もこれまで以上に需給バランスが崩れるものと予想している。カラマツ集成材は競合製品との価格差が大きく、苦戦が続いている。スギ集成材の販売量は横ばいで推移しているが、製品価格が急速に下落しており、今後のラミナ価格、原木価格への影響が懸念される。
- 素材販売量は、R4年10月～12月は前年比90%、R4年12月～R5年1月は前年比80%。合板工場、集成材工場において減産に伴う原木受入制限が行われている一方、燃料用原木は不足している状況。合板製品価格に変動はないが、集成材製品は海外製品の影響を受けて値下げが続いている。今後の価格動向については、海外製品の過剰在庫が解消されなければ見通しが難しい。
- 新築需要の停滞は年明け以降さらに厳しさを増している。製材品の需給動向は先行き不透明で当用買いが続くと思われ、コスト高の在庫を抱えながらの荷動き低迷はしばらく続くと思われ、一方、製紙用原木には不足感があり、降雪の影響もあり入荷が鈍い状態。燃料用原木も引き合いが強く、価格は高値で安定している。
- 電気料金や燃料代が高い状況の中で需要も停滞しており、工場は厳しい経営を余儀なくされている。物価上昇や金利上昇に向けた政策変更による今後の住宅着工への影響が懸念され、これから春に向けて需要動向がどうなるのか注視していく必要がある。需要が停滞する中、山土場に滞留する原木の取扱として、中国への原木輸出用に振り向ける動きが今後活発になると予測される。
- 合板製品については、年明け以降需要不振が一段と加速しており、合板メーカーは生産調整を継続しながら製品価格維持に努めている。原木の受入制限は継続しているが受入価格は保合。一方、繊維板は置き床用2×6版を中心に旺盛な需要があり、繊維板用原木は需給ひっ迫状態となっている。大手PB工場の稼働により深刻な製品不足は解消されているが、原木・製品ともに価格は当面強含みの予想。
- 原木・製品とも需要はこのまま低調に推移する予測。プレカット工場に見積もりが増え始めれば製品の引き合いも上向くと思われるが、5月の連休頃までは期待薄。ただ、各社とも在庫を増やしていないため、今後荷動きが回復した場合に対応できず品不足に陥る可能性が高い。国有林には、せつかく国産材に向けた需要を失わないよう、安定供給及び臨機応変な供給調整を期待したい。
- ウッドショック後に国産材をめぐる状況が悪化することはある程度わかっていたことだが、荷動き・価格動向共に予想していたより厳しくなっている。春以降、住宅着工数が増加するにつれて改善に向かうと期待。今後は、エネルギー・資材価格の高騰、円安、物価高等による消費マインドの落ち込みへの対応のみならず、少子化等による中長期的な市場縮小等もにらんだ対応が求められるようになると思う。